

はくい



病院理念

人にやさしく 信頼される病院

基本方針

- 私たちは 皆様の権利や意思を尊重し、納得のいく医療を提供します。
- 私たちは 地域に必要な医療を提供し、健やかで豊かな地域社会の実現を目指します。
- 私たちは 安全で良質な医療を提供するため、日々研鑽いたします。

日本医療機能評価機構認定病院
羽咋郡市広域圏事務組合

はくい
公立羽咋病院

〒925-8502 石川県羽咋市の場町松崎24番地
TEL(0767)22-1220 FAX(0767)22-5598
<http://www.hakuihp.jp/>
E-mail:hakuihsp@po.incl.ne.jp

逆流性食道炎と 機能性胃腸症について



内科医長 川口 和紀

逆流性食道炎は胃で作られる消化液である胃酸が食道に逆流すると、その表面を傷つけるため胸焼けや胃もたれなどの症状を引き起こす病気です。胃と食道の境界で締め付けている筋肉が緩くなると食道裂孔ヘルニアという状態になり、これは胃カメラ検査で見受けられ、食物や胃酸が逆流しやすくなります。この食道裂孔ヘルニアは食道炎を起こす患者さんに比較的高率に認められます。

どういった人が逆流性食道炎になるかですが、若い人にもなったり高齢の方でもなったりして様々です。若い人でも食道裂孔ヘルニアを持つ方はいますし、アルコールを摂取した後に逆流しやすい、ということもあります。お年寄りになると円背、亀背といわれる背骨が曲がった方を時に見受けられますが、こういう方も食道炎になりやすいです。

治療は胃酸を抑える薬が第一に挙げられます。プロトンポンプ阻害剤やH2ブロッカーがあり、胃酸の産生を抑えて食道に対する刺激を抑えます。この薬は、胃、十二指腸潰瘍の優れた薬でもあります。もう一つは姿勢が大事です。胃に到達した食べ物が食道に戻らないようにすることを心がけましょう。例えば食べた後すぐ寝るのは逆流の観点からすると悪影響となります。

しなしながら逆流性食道炎は、必ずしも胃カメラ検査で食道炎を確認して診断がつくものではありません。カメラで異常がなくても胸焼けの症状は同様に認められる方もいます。この場合は“逆流性食道症”ともいわれます。

関連した病気として機能性胃腸症（FD：機能性ディスぺプシア）というのがあります。内視鏡上たいした所見が無いのに、強い胃炎や胃潰瘍の時のような症状を訴える方がいるのですが、何故でしょう？

胃もたれや胸やけが起きたりするのは胃の機能すなわち胃で食べ物を貯留したり、排出したりする機能がおかしくなる、ということであり、それはストレス、胃酸の分泌が多い、胃の知覚過敏が強い、といった理由が挙げられますが、一人一人に全て当てはめられるかといえばそうではありません。ただ、大まかには生活上の心理的な理由が関連していることは間違いなさそうです。

治療としては生活習慣をよく考えることが必要です。特に食事（過食や早食い、不規則な食生活、喫煙や飲酒）また生活リズムの不調（短い睡眠時間や仕事の疲れ）等を正すことが必要です。また、

治療薬としては上記の胃酸を抑える薬以外に消化管の運動を良くする薬も効果があります。ストレスの要素が強ければ抗不安薬も考慮されます。

以前は機能性胃腸症という病気の名前は存在していませんでしたが、最近になりよく使われるようになりました。上記の薬を使うのですが、つい最近この病名で処方できる薬が登場しました。

アコチアミドという薬であり、消化管の運動を良くして胃で長く食物がたまるのを抑える役割があり、機能性胃腸症の症状改善に効果があるといわれます。この病気の分野でもどんどん新しい薬が登場し、その症状のつらさを無くすことが期待されます。



逆流性食道炎

にっこり😊プチナース体験

看護週間(5月12日～18日)にちなみ、園児を対象に「プチナース・ふれあい体験」を行いました。看護の仕事のすばらしさを知ってもらうのが狙いで、邑知保育園の年長児24人がリフォームした白衣に着替え、新生児と同じ重さの人形を抱っこしたり、おもむつ交換をしたりしました。2人1組になり聴診器で互いに相手の心臓の音を聞く体験をした子供たちは「心臓の音が聞こえた」「トックトックンっていた」と嬉しそうな様子でした。

その後2階病棟(整形外科、眼科、小児科)を訪問、歌を披露してくれました。病棟患者様には大変喜んでいただけ、中には涙ぐまれる姿も見られ、今後も続けていきたいと思いました。また、今回の体験を通して誰か1人でも看護職に興味を持ってくれたら嬉しく思います。

今回参加いただいた邑知保育園の園児のみなさん、保育士さん、保護者の方々に感謝致します。

副看護師長 北 信代



看護の日ふれあいイベント

平成25年5月9日に、『あなたの健康をチェックしよう』というテーマで、看護の日ふれあいイベントを開催させていただきました。内容は、骨密度測定とストレッチ体操、体脂肪測定、塩分量の違う味噌汁の飲み比べ、また、災害拠点病院指定に伴い購入した災害グッズ展示などを行い、診察や会計などの待ち時間に70名ほどの方に参加していただきました。

骨密度や体脂肪測定では、かなり精密な結果が出るので、生活習慣病予防のために役立つ支援ができたと思われます。味噌汁の飲み比べでは、家庭の味が辛いと反省される方や、お若い方から「家に帰ってお母さんに教えてあげる」という言葉がきかれ、幅広い年齢層の方々に健康について興味を持っていただきました。このようなイベントを催すことで、寝たきりや生活習慣病の予防となり、介護料や医療費を減らし、人も日本も元気になることを期待しています。



主任看護師 平 真由美

総看護師長就任の挨拶

今年度4月1日付けで総看護師長に就任いたしました山中由貴子と申します。地域の自治体病院として住民のみなさまの健康を守り、疾病の回復を支援していく看護部の責任者として重く真摯に受け止めております。

団塊の世代が後期高齢者となり医療現場がますます大変なことになりそうだという、いわゆる2025年問題を見据え、国はいろいろな対策を練っています。もれなく私どもの病院もその問題に向かっていかなければなりません。しかし、地道にやるべき事をやっていく中でその方向性は見えてくると信じています。

当院は以前より多職種が連携・協働しながら患者様のケアにあたっています。これをチーム医療といい、これからの医療の鍵と考えます。

私たちは、看護部理念である「感じる心、考える力、表現する力で患者様の回復を支援します、を実現していきます。どうぞよろしくお願いいたします。



総看護師長 山中由貴子

院内他部署研修を行いました



看護師 福田久美

放射線科と血液浄化センターへ研修をしてきました。放射線科では医師、看護師、医療関係者との連携をとりながら患者様の体調を気遣い、より良い診断、治療目的のために、画像作りを短時間で

行われていました。血液浄化センターでは週2～3回、3～4時間を透析で過ごされる患者様に苦痛のない環境作りや同じ時間を過ごす患者様同士の悩みを話せる時間の配慮が作られていました。自然と信頼関係ができ、治療を続けるための援助となっていました。些細な心使いが出来るすばらしい病院だと思いました。羽咋病院で勤務して2年目になり、さらに研修を重ね苦手なことにも挑戦していこうと思いました。

看護師 日下和哉

今回、私は臨床工学技士と臨床検査技師に他部署研修として参加しました。

経験したことのない職種を研修し、他職種の知識・理解を深めることができ、とても新鮮な気持ちで研修ができたように感じます。専門性の高いさまざまな職種が、患者様の治療に関わり、質の高い医療の提供が行えることが実感できた研修でした。



放射線技師 南 梨沙

他部署研修では自分が普段の仕事で見たり、したり出来ないことが体験できたので、とても勉強になりました。リハビリテーション科、3階病棟、手術室で研修させていただきましたが、放射線科の他部署との関わりを考えるよい機会になったと思います。



看護師 竹谷友子

院内には、様々な職種がある事を知りました。また、様々な職種が専門性を生かし、患者様と関わりをもっている事を知りました。チーム医療の一員の看護師として、専門性を高め、日々努力していこうと思います。

看護師 酒井 愛

放射線科と臨床検査科へ研修に行きました。私は普段は中央処置室で業務をしているので外来患者様への看護が主となります。両科とも処置室業務と深いつながりがあり、2日間で多くのことを学ぶことができました。業務内容を詳しく知ることができ、今後の業務がさらに円滑にすすめるよう生かしていきたいと思いました。



看護師 堀 綾香

他部署研修を通して、多くの他職種者との連携を図りながら医療が行われていることが分かりました。放射線科では、レントゲンやCTなどの検査を行うために、撮影部位や対象年齢によって撮影方法が異なるため色々な工夫をしながら撮影していると感じました。また、薬剤科の研修を通じて薬を投与するまでの流れを見学することが出来、他職種との連携を図ることで患者さんに安全な医療を提供出来ていると感じました。



産婦人科外来が新しくなりました

5月上旬に、産婦人科外来と助産師相談室の改修が完了しました。

待合室は、他科に受診されている方から見えにくい配置にし、窓から太陽の光が入る快適な空間になりました。診察室は、声が外に漏れないように防音にしました。内診室は広くなり、鍵付きの扉をつけました。内診台は昨年より回転式内診台に変更しました。内診台への上り下りが大変だった方からは、「身体の負担が少なくなったからいいですね」と好評です。

地域の方から、「産婦人科の診察は恥ずかしい。行きたくない。私は癌にならないでしょ…」という声を時々聞くことがあります。このように産婦人科の診察（検診）を先延ばしして、治療のタイミングが遅れてしまう場合があります。産婦人科も早期発見・早期治療が大切です。

今後も、スタッフ一同“安心して気軽に受診が出来る産婦人科外来”を目指していきます。これからもよろしくお願いいたします。

主任助産師 定仙光代



鍵付扉の診察室



回転式内診台

【助産師相談室について】

助産師相談室は平成19年5月から開設され6年が経ちました。母乳育児、妊娠、不妊、更年期、思春期などの相談に、助産師が対応しています。年間約250件の利用があります。母乳育児等の相談には、ママになった方だけでなく、はじめて祖父母となられる方の相談もあります。羽咋市以外の方、里帰りでご帰省されている方の利用も可能です。お気軽にご利用下さい。

相談日時：火曜午前、木曜午後 予約制

相談料：相談無料 乳房マッサージ¥1,050

詳しくは担当助産師 定仙（じょうせん）までお問い合わせ下さい。

問い合わせ先：公立羽咋病院（代）22-1220 産婦人科外来

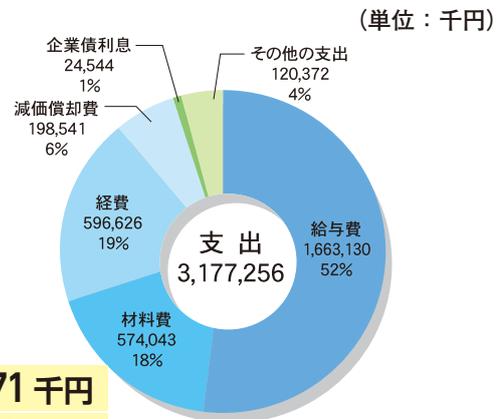
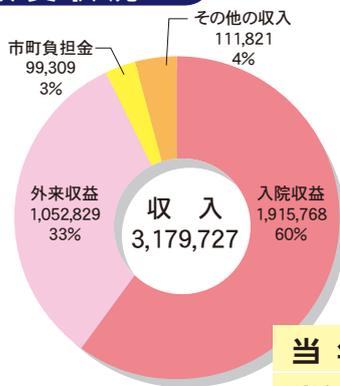


助産師相談室

平成24年度決算のお知らせ

平成24年度病院事業の決算について、ご報告申し上げます。

収支状況



当年度純利益 2,471千円
当年度末累積欠損金 97,080千円

利用状況

区分	年延数	1日平均	1人1日当たり収入	病床利用率
入院	50,290人	137.8人	38,094円	75.3%
外来	119,710人	446.7人	8,795円	

やすらぎコンサート



翠松会の皆さんを招いたやすらぎコンサートは、踊り、オカリナ、大正琴と盛りだくさんの内容でした。「野に咲く花のように」や「見上げてごらん夜の星を」など、皆さんのよく知っている曲目の演奏で、歌を口ずさんでいる方も多くいらっしゃいました。

最後は月光仮面が登場、躍動的な姿に患者さんも元気をもらえたようでした。

医療サービス推進室

社会福祉士 井上麻有子



ありがとうございます

- ♥ なぎさ表紙題字・絵手紙 辻口 敦子 様
- ♥ 写真 羽咋写真協会の皆様
- ♥ 絵画 羽咋美術協会の皆様
- ♥ 俳句 宝達志水町若葦会 岡部 和子 様 他
- ♥ 園児の絵 西北台保育所
- ♥ 季節のお花 外来患者様



なぎさ43号に訂正箇所がありました。お詫びして訂正します。

場所 新採職員紹介
誤 浅野 ひろよし 弘善
↓
正 浅野 ひろよし 弘喜

いきいき健康づくり教室

♪どなたでも参加できます♪

「コレステロール・あぶらで血が「ドロドロ」

開催予定日: 8/7(水)、9/4(水)、10/2(水)

第1水曜日 15:00~

場所・1階情報プラザ前ホール

内科医師、栄養士

「高血圧・塩で血管がパンパン」

開催予定日: 8/19(月)、10/21(月)

第3月曜日 15:00~

場所・1階情報プラザ前ホール

内科医師、薬剤師、栄養士、看護師

「ねたきりにはならない！」

開催予定日: 8/28(水)、9/25(水)、10/23(水)

第4水曜日 15:00~

場所・1階情報プラザ前ホール

整形医師、理学療法士、看護師